

くすりのしおり

自己注射剤
2026年07月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：アポカイン皮下注 30mg

主成分：アポモルヒネ塩酸塩水和物 (Apomorphine hydrochloride hydrate)
剤形：無色～うすい黄緑またはうすい黄赤色澄明な注射剤（カートリッジ）
シート記載など：



この薬の作用と効果について

脳内の神経伝達物質であるドーパミンの受容体に作用することにより、パーキンソン病の症状である、ふるえ、筋肉のこわばり、動作が遅くなる、姿勢の障害などの症状を改善します。通常、他の抗パーキンソン病薬の頻回投与や増量などを行っても十分に効果が得られない場合の、パーキンソン病におけるオフ症状（薬が切れて調子が悪い状態）の改善に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。肝機能障害がある。心血管系の障害があるまたは起こしたことがある。不整脈を起こしたことがある。QT延長症候群がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、オフ症状があるときに専用の注入器を用いて皮下に注射します。成人はアポモルヒネ塩酸塩として1回1mgから始め、その後経過を観察しながら1回量として1mgずつ増量し、維持量（1回量1～6mg）を定めます。症状により適宜増減されますが、1回量としての最大量は6mgです。必ず指示された使用方法に従ってください。
- ・次の使用までに少なくとも2時間あけてください。また、1日の投与回数の上限は5回としてください。
- ・注射部位は医師の指示に従い二の腕、太もも、お腹を順序よく移動し、短期間のうちに同一部位に繰り返し使用しないでください。
- ・一度使用した注射針は再使用しないでください。
- ・注入器およびカートリッジを他の人と共用しないでください。
- ・誤って多く使った場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、使うのを止めないでください。

生活上の注意

- ・前兆のない突発的睡眠や傾眠（眠気でぼんやりする）が現れることがありますので、自動車の運転や機械の操作、高所での作業など危険を伴う作業はしないでください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、注射部位の変化（しこり、血腫、かゆみ）、ジスキネジー（口の周囲の持続的な不随意運動）、あくび、傾眠、幻視（実際にはないものが見えたりするように感じる）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・突然の耐えがたい眠気、刺激がないと眠ってしまう [突発的睡眠、傾眠]
- ・動悸、気を失う [QT延長、失神]
- ・冷汗が出る、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ [狭心症]
- ・めまい、ふらつき、立ちくらみ [血圧低下、起立性低血圧]
- ・実際にはないものが見えたり聞こえたりするように感じる、実際に存在しないものを存在するかのように感じる、根拠が無いのにあり得ないことを考えてしまう [幻視、幻覚、幻聴、妄想]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。
- ・使用開始後は、14日以内に使用してください。
- ・[ご家族の方へ] 社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物を繰り返したり、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがありますので、

これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

SI①